



赤い羽根 新型コロナウイルス感染下の福祉活動全国キャンペーン 第2弾

～新型コロナウイルス感染下において困窮する人々を支援する～

「外国にルーツがある人々への支援活動応援助成」第2回助成決定にあたって

2021年11月30日

1. 応募状況の概要

- 外国にルーツがある人々への支援活動応援助成への応募は、56件（1億1,438万円）でした。
- 応募した団体の所在地は、東京都が13件、兵庫県が6件、神奈川県・京都府・大阪府が4件、埼玉県・愛知県・広島県が3件、福島県・滋賀県・岐阜県・愛媛県が2件、宮城県・茨城県・栃木県・長野県・山口県・福岡県・佐賀県・宮崎県が1件であり、前回同様に外国にルーツがある人々の居住割合が高い地域からの応募が多い傾向にありました。
- 応募した団体の法人種別は、NPO法人が27、任意団体が18、一般社団法人が5、公益財団法人が3、公益社団法人が2、社会福祉法人が1でした。

2. 助成決定の概要

- 応募いただいた団体の審査を行った結果、43団体、総額7,605万円の助成を決定しました。
- 応募要項に照らし合わせて審査を行い、必要性・緊急性が高い活動、また確実に効果的な支援につながる活動であると応募書から判断されるものを決定いたしました。

3. 助成決定にあたって（委員長コメント）

昨年、三菱創業150周年を記念した社会貢献事業の一環として供出された公益財団法人三菱財団からの資金を原資に、新型コロナウイルス感染下において、国内に在住し、生活に困窮する等さまざまな困難な状況にある外国にルーツがある人々を支援する活動を、資金面から応援することを目的として第1回助成を実施いたしました。

第1回助成先団体などの声から、従来より公的支援の枠組みからこぼれ落ちていた、または言語の壁などにより支援とつながりにくい外国にルーツがある人々は、コロナ禍が長引く中で、雇い止めなどによる経済的困窮、必要な支援や医療情報への母語によるアクセスの困難さ、自粛による地域からの孤立など、引き続き困難な状況に置かれていることが分かりました。このような状況において、同様の支援活動、または新たな支援活動の展開が必要とされているため、三菱財団と共同助成により第2回助成を実施することとなりました。

外国にルーツがある人々への支援活動は、民間非営利においても、社会福祉や国際理解・交流など多様な分野にまたがるものとして、これまで焦点が当たってこなかった活動領域の一つであり、昨年に引き続き今年も、そうした領域の活動に光を当てることができたことは、社会にとって大きな意義のあるものだと感じています。

今回、応募があった56件のうち、助成として43件が採択され、7,605万円の助成が決定しました。コロナ禍により職や住まいを失い生活が困窮する人たち（留学生、難民、技能実習生を含む）、自粛により日本語学習の機会や人々と交流する機会が減った子どもや若者に対して、生活相談や就労支援、シェルター等の提供による居住支援、専門家や行政への相談・申請における翻訳や通訳支援、日本語学習支援、地域で孤立しないための居場所づくり活動、医療通訳や同行支援、多言語による医療や支援情報提供、外国にルーツがある人々のコミュニティ支援など、多様な活動がみられました。これらの活動では、with コロナを見据え対面のみならずオンラインによる活動を組み入れる事業が数多くみられました。

またこれまでの支援活動を広く、またはより効果的に展開することを目的として支援者を育て支える活動が幾つかみられ、外国にルーツがある人々への支援活動の裾野が広がることが期待されました。

本助成を通じて、日本に暮らす外国にルーツがある人々がわが国の社会にとってますます必要とされていることを改めて認識いたしました。その一方で、このような取り組みがまだまだ草の根レベルで支えられていることが、ご応募いただいた団体のこれまでの活動実績から伺えました。

そこで本助成が、地域の行政や他の支援組織との連携、また地域住民との連携を生み出し強化するきっかけとなり、地域ぐるみで外国にルーツがある人々を支える体制が全国各地で構築されることを期待いたします。

最後に、新型コロナウイルス感染拡大という思いもよらぬきっかけではありますが、三菱財団、また「赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動全国キャンペーン」にご寄付を寄せていただいたみなさまのご厚意により、外国にルーツがある人々やその方たちを支える取り組みについて、広く社会に知っていただく機会となったことは大変意義深いことだと思います。これからこのような取り組みへ、社会がもっと光を当てていく契機になることを願っております。

「外国にルーツがある人々への支援活動応援助成」審査委員会
委員長 上野谷加代子